

家庭・学校・地域社会の連携強化

「地域の特性を生かした P T A 活動」

常滑市立大野小学校 P T A

1 はじめに

本校は知多半島の西岸に位置し、創立は明治 6 年と歴史があり、昭和 35 年に三和西小と合併し、現在の場所へ移ってきた。

大野小校区の近くには港があり、昔はこの地方の海運の要所港として大いに栄え、今も当時の繁栄を偲ばせる街並みが点在する。

現在本校の児童数は 221 名、学級数は 12 学級（通常 7 学級、特別支援 5 学級）、P T A 会員数 170 世帯の小規模校である。



【大野小学校校舎】

2 研究への取組

(1) 研究のねらい

ここ数年、児童数は少しづつ減少をしており、今後もこの状況は続くことが予想される。また、大野地区は近くに祖父母の家があるといった家庭が多い。そして、地域の人たちには「みんなで子供たちを育てる」という意識が強く、近所の横のつながりもしっかりとしている。

そこで、学校や保護者の力だけでは困難な取組を、地域の力を活用することで、学校や保護者の負担を軽減しながら、継続的な取組になるだろうと考えた。そして、児童が地域に触れ、大野地区のよさに気付いたり、体感したりすることで、将来、大野地区を支える地域の力となってくれることを期待し実践を試みた。

(2) P T A 組織

本校の P T A 組織は運営委員（会長、副会長、家庭教育委員、書記会計）と学年代表委員を中心として構成されている。運営委員の 4 名は 6 年生の保護者から、学年代表委員は 1 年生から 5 年生の保護者から各 2 名ずつ選出される。

年間に 4 回の運営委員会と 2 回の代表委員会が計画されている。専門委員会等は設置せず、各学年の学習支援や行事支援を行う「P T A ○○○おたすけ隊」と称して、単発のボランティ

アを募って活動している。

3 実践活動の概要

(1) 大野小学校フラワースタッフ

花壇の世話や樹木の剪定、除草作業など緑化環境を整えることは多大な労力と時間が必要で大変である。植栽や剪定などは時期も配慮して行わなければならない。今まででは P T A 活動として除草作業を年に 1 回、ボランティアを募り行っていたが十分ではない。そこで、1 年を通して支援をしてくれる人材を求める地域へ呼びかけることにした。

【活動の方針】

- ・活動はフラワースタッフの都合のつくときに来て行う。
- ・活動日、時間は学校担当者から指定するのではなく、フラワースタッフが集まりやすい日時で設定する。
- ・花壇に植える花の種類や植え方（配置）はフラワースタッフの案を基に行う。
- ・作業道具、肥料、苗、種子等は学校担当者で用意する。

以上の活動方針で呼びかけたところ、保護者を含め 12 名の賛同者を募ることができた。

最初の打ち合わせで、学校担当者から活動の方針について再度確認をし、早速花壇のデザイン制作に取り掛かった。まず、担当する花壇の場所や大きさ、状態を確認した。次に、視察を基に花の種類や配置について話した。しかし、ここまで活動でかなりの時間が過ぎていたので、フラワースタッフ同士で次回の日時と集合場所を調整した。そして、次からは都合のつくフラワースタッフさんのみが参加することとなった。後日、学校担当者に花の種類やデザインなど決まった内容が伝えられ、それを基に肥料などを学校担当者が用意した。花の苗の調達については、花の種類の関係でフラワースタッフにお任せした。そして、花の苗が届くまでの間に花壇の整備（除草や肥料を加えた土作り）まで行った。

花壇作り以外にも、校庭や中庭の除草作業を中心に行ってくれているフラワースタッフもいる。中庭の除草作業は草刈り機を使うため児童の安全に配慮し、休日に来校して活動している。花壇作りでも、除草や土作りの際は、作業内容に合わせて無理なく参加している姿が見られた。



【採用された缶バッヂ】

また、フラワースタッフにはスタッフの証として缶バッジを配付した。この缶バッジのデザインは全校児童から募集した。この募集を通して児童にもフラワースタッフの取組について伝える機会となった。

(2) 安全パトロールボランティア隊

児童の登下校時の交通安全、不審者対策を一緒に行ってくれる方を地域から募って編成されたボランティア隊である。19年目となる今年度は6名の方が参加している。

【活動の方針】

- ・活動はボランティアの都合のつくときに行う。
- ・活動場所は指定せず、ボランティアが立ちやすい通学路で見守る。

以上の方針を基に、ここ数年のボランティアの活動の実際は、ほぼ毎日見守りをしている。低学年の集団下校の際に、学校から一番遠い児童の自宅近くまで最後尾について行ってくれたり、巡回車で見通しの悪い場所を巡回して見守ってくれたりして、とても積極的に活動している。児童に対してもよく声かけをしてくれるので、児童もボランティアに対して親しみを感じている。ボランティアとは学期に1回のペースで情報交換会を行っている。この会では、ボランティアから児童の下校の様子や気になる事が出されることもあり大事な会となっている。

しかし、安全パトロールボランティア隊は毎年募集をしているが、ここ数年同じ方しか参加してもらえておらず、メンバーも高齢化が進んでいる。現在参加しているボランティアからも自身の健康の不安から来年度の参加を迷っているという声が出ており、ボランティア隊の継続が危ぶまれている。

(3) 地域の防災活動との連携

本校の学区は海の近くにあるため、地震だけではなく津波による浸水の危険も想定されている。そのため、児童の防災意識を高めると同時に、PTAとしても地域と連携した防災活動を行うことができないかという意見がPTA役員から出された。そこで、運動会のPTA種目として防災をテーマとした保護者種目を取り入れることとなった。

PTA役員が地域で防災活動に取り組む方に相談したところ、他地域での防災運動会の取組を紹介していただいた。その中から取り組めそうな内容をPTA種目として実施することになった。

【取組の内容】

- ・毛布と竹を使った簡易担架で児童を運ぶリレーを行う。
- ・保護者や地域の方から選手を募る。
- ・地区別にチームを編成し、地区での団結力を高める。

種目で使う簡易担架は、竹2本に毛布を巻き付けて作る即席の担架であり、災害時の緊急の対処法の一つとして紹介されているものである。保護者4人で児童一人を乗せた簡易担架を運ぶ折り返しリレーを運動会の種目として行うことによって、災害時に身近な物を使ってけが人を運ぶ方法について周知することができると思った。また、学区の4つの地区をもとにしたチーム編成をすることによって、同じ地区でも日頃面識のなかった保護者同士が関わり合う機会となることをねらった。

運動会のPTA種目の実施はコロナ禍をはさんで6年ぶりである。そのため、選手として参加する保護者が集まるかどうか心配ではあったが、28名の参加希望があった。中には両親が揃って参加する家庭もあり、保護者の防災への関心の高さとともに、児童を楽しませたい、保護者も一緒に運動会を創りたいという意気込みが感じられた。また、来賓として招いた地区の代表の方の中にも競技に参加してくださった方もおり、学校・家庭・地域が一緒になって運動会を盛り上げることができた。

4 おわりに

大野地区の方々は児童への支援について積極的に取り組んでくれており、非常に頼りになっている。「フラワースタッフ」や「安全ボランティア隊」のようなマンパワー（実働的支援）だけでなく、運動会の取組のような情報・アイデア（知的支援）の面でも地域と連携することによって、PTA活動をより充実させられることが分かった。

しかし、これらの取組を含め、各種PTA活動については持続可能なものでなければならぬ。各ボランティアや学校担当者が負担を感じることのないように、情報交換などを大切にしながら今後も無理なく活動していくようにしたい。



【ボランティア隊への感謝の会】